杏林大学病院ニュース

No. 34
発行 2017年4月

地域医療の充実をめざして
関係機関の皆さまとともに

contents

・世界初新型高精細ＣＴスキャナ導入 ・診療科紹介
・臨床検査部 ISO15189 取得 ・H29 年４月就任教授紹介
・地域医療連携からお知らせ ・H29 年度入職研修医
・５月の公開講演会

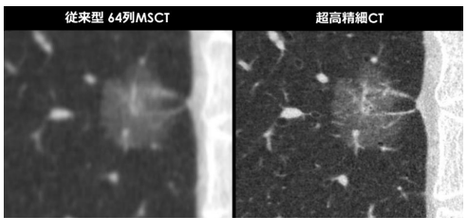
編集：杏林大学医学部付属病院
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
TEL 0422-47-5511（代表）
http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/

■ 世界初新型高精細ＣＴスキャナを導入

外来棟地下１階放射線科に新型超高精細 CT スキャナ「Aquilion Precision」を世界で初めて導入し、４月から運用を開始しました。

このCT スキャナは、従来最も薄いとされていた撮影スライス厚 0.5mm 間隔の半分となる 0.25mm 間隔の検出器を備えています。検出器の列数は 160 列で、高精細な画像を一度に広い範囲で撮影することが可能となりました。

放射線部似鳥俊明特任教授は、「この CT スキャナで画期的な空間分解能の向上が得られ、CT の世界では夢であったものがようやく実現しました。微細構造の描出を可能にし、病巣の早期発見、正確な診断に大きく寄与することが期待できます」と話しています。

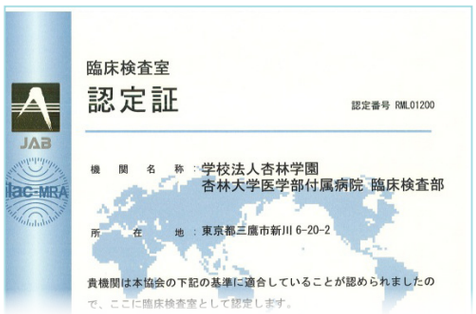


従来型のマルチスライスＣＴによる断層画像（左）との比較 →
超高精細ＣＴ画像（右）の鮮明さが際立つ。

■ 臨床検査部 ISO15189 認定を取得

当院臨床検査部は、2017 年１月に国際規格である ISO15189 の認定を取得しました（認定番号 RML01200）。

ISO 15189 は、臨床検査室に特化した ISO（国際標準化機構）規格で、検体採取から検査結果の報告まですべてに渡って、国際的に明確なマネジメントシステムの要求事項を満たすことが求められています。この認定取得により、臨床検査部の品質管理と技術能力が国際的な基準に適合し、信頼性の高い検査データを提供していると認められました。



患者支援センター 地域医療連携から

FAX による診療予約申込時間延長のお知らせ

受付時間　平日　9:00 ～ 18:00
　　土曜日 9:00 ～ 12:00

※従来は平日 16:00 まででしたが、18:00 まで延長します。

今後も医療連携の強化をめざし、出来る限り地域医療機関の皆さまの要望にお応えできるよう、より一層力を入れてまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

５月杏林大学公開講演会

日時・会場	テーマ
5/13（土） 14:00-15:30 三鷹ネットワーク大学	**うつについて改めて知ってみませんか？** 医学部教授 渡邊衡一郎他
5/20（土） 14:00-15:30 三鷹ネットワーク大学	**腸内フローラと健康** 医学部教授 神谷 茂
5/27（土） 13:30-15:00 杏林大学病院	**口腔ケアと手術** 医学部講師 池田哲也

※参加費・申込不要

●三鷹ネットワーク大学：JR 三鷹駅前協同ビル３階
●杏林大学病院：JR 三鷹・吉祥寺駅南口よりバス 20 分

◆ 救急総合診療科

当院は、2006年5月に北米型ER救急を実践するべく救急初期診療チームAdvanced Triage Team（ATT）を発足させ、内科系救急患者への初期対応を一元化して行ってきました。ATTは2012年には独立した診療科（ATT科）となり、2016年4月から救急総合診療科と名称変更し現在に至ります。

特に内因性の疾患の診断に重点をおいた診療科という点が特徴的であり、たとえ軽症であっても地域のかかりつけ医では確定診断が困難な症例などの受け入れを積極的に行っていきたいと考えています。

患者をご紹介いただく際は、救急総合診療科宛てと記載した診療情報提供書を患者に渡し、持参の上、救急救命センターに来院するようご指示願います。当科で診断の後、外来で治療が可能な場合は、紹介元の先生に再度経過観察をお願いすることで、地域医療の活性化につなげていければと思います。

◆ 腎・透析センター

地域の基幹透析施設として、血液透析（HD）を中心にアフェレーシスを含むあらゆる血液浄化療法に対応する他、腹膜透析（CAPD）の導入・外来管理も積極的に行っています。

血液透析では、透析導入時、および、維持透析患者の合併症入院時の対応が中心ですが、一部は外来維持透析も行っています。もし進行期の腎不全患者がいましたら、早めに当院腎臓内科外来へご紹介ください。維持透析中の合併症のため入院が必要になった場合は、各科・病棟とも連携して適切な透析管理を行います。

また、保存期腎不全患者の教育や慢性腎臓病（CKD）に関する地域啓発活動にも力を入れており、市民を対象とした公開講座（年1回）や患者向けの腎臓教室（年数回）などを開催しています。

チーム医療を通じて地域の腎臓病患者に最善のトータルケアを提供できるよう、日々活動しています。

■ 平成29年4月就任教授紹介

眼科学教室
岡田　アナベル あやめ

ハーバード大学医科大学院　（医学博士）
昭和63年マサチューセッツ・ジェネラル・ホスピタル内科インターン、大阪大学医学部眼科助手等を経て、平成11年杏林大学講師着任、平成21年同 臨床教授

眼炎症（ぶどう膜炎、強膜炎など）および黄斑疾患（加齢黄斑変性、高度近視など）を臨床専門としており、眼科領域のなかでは内科的な治療が主体です。臨床研究および教育（特にフェローの教育）にも力を入れて、患者に役立つ最先端の診療を目指しています。

放射線医学教室
横山　健一

新潟大学医学部　博士（医学）
平成3年杏林大学医学部付属病院研修医、東京逓信病院放射線科等を経て、平成7年杏林大学助手着任、平成19年米国ハーバード大Brigham and Women' s hospital研究員

全ての臓器分野における安全で侵襲の少ない検査、高いレベルの画像診断を心掛け、患者さんにとって優しく質の高い医療の提供に貢献できるよう尽力する所存です。また最先端の診断装置を用いた臨床研究や次世代を担う専門医育成にも取り組んで参ります。

（臨床教授）
救急医学教室
樽井（たるい）　武彦

大阪大学医学部　博士（医学）
平成3年大阪大学医学部外科、米国スクリプス研究所 post doctoral fellow を経て、平成14年杏林大学助手着任

救命救急医療は、医師・看護師・その他の職種を含めた医療チームの知識・技術の総合力です。自ら病院を選べない救命救急領域の患者さんに、より良い医療を提供すべく、自ら日々研鑽し、周囲のスタッフとともに成長していけるよう、引き続き努力して参ります。よろしくお願いいたします。

（臨床教授）
麻酔科学教室
徳嶺（とくみね）　譲芳（じょうほう）

琉球大学大学院医学研究科　（医学博士）
平成2年琉球大学医学部附属病院研修医、カリフォルニア大学サンディエゴ校研究員、誠馨会千葉メディカルセンター麻酔科診療主任部長（旧川鉄千葉病院）等を経て、平成27年杏林大学准教授着任

静脈路の確保は非常に単純な技術ですが、確保できるか否かで人命が救えるかどうかが決まる医療の基本的手技です。安全な静脈路確保の技術の向上と研修医教育で医療の安全に貢献したいと考えています。ご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

（臨床教授）
内科学（腫瘍）教室
長島　文夫

東北大学大学院医学系研究科　（医学博士）
平成10年国立がんセンター東病院内視鏡部消化器科医員、南カリフォルニア大学ノリス癌センター腫瘍内科リサーチフェロー等を経て、平成21年杏林大学准教授着任

抗がん剤を中心としたがん薬物療法を中心に診療を行っております。がん診療は、多診療科・多職種・病院診療所間の協力によって成り立っています。様々な状態の患者さんに対応できるよう、層の厚い診療体制を確立し、質の高い医療を提供していく所存です。

■ 研修医55名が入職

平成29年度は、55名の研修医が入職しました。

2週間のオリエンテーションを終え、4月14日から各科で研修をスタートしています。

（写真は入職式の様子）